

(そのとき、イエスは弟子たちに言われた。)「お前たちは、わたしが飢えていたときに食べさせ、のどが渇いていたときに飲ませ、旅をしていたときに宿を貸し、裸のときに着せ、病気のときに見舞い、牢にいたときに訪ねてくれたからだ。 -中略- はっきり言うておく。わたしの兄弟であるこの最も小さい者の一人にしたのは、わたしにしてくれたことなのである。』 -マタイ 25 章-

王であるキリスト

「自分」の生き方は、本来、自分で決めるべきです。強制されるのではなく、自主性を重んじるのが神さまのやり方ですから。自主性には、生き方の結果に責任が伴いますから、人生で陥りやすい不幸に注意しなければなりません。それは「自分本位に生きる」不幸です。

「自分本位」は自主性とは似て似つかないもので、何人も介入させず、本性(自己保身と自己中心性)のままに生きるエゴイズムであり、「自主性」は、信仰者にとって創造主に従属し、神の意図を理解して生きることにより、これを自ら選択することに、強制ではない「真の自由」があるのです。

二週にわたってミサで朗読された福音書「10人の乙女のたとえ」と「タラントンのたとえ」は人が生きた結果の責任を取る「審判の日」のために、私たちに向けられたイエスの警告でしたが今日の福音とともに、創造主である「神の意図」が具体例をもって示されているのです。

神が人類に求めておられる「創造の意図」は理解に難しいものではありません。それは物や心の法則は逆らうべきではないように、自然と人に対してその法則に服する謙虚さと、造られたすべてのものは良かった神の価値観(タラントン)で「神に仕え、神を賛美する」素直で貧しい心に示されるものだからです。神は貧しさの中で、ご自身と関わる「忠実な良い僕」を待っておられるお方です。

神を求めてこれから待降節を迎える皆様は、隠れておられる神さまを何処に見出されるのでしょうか？ 待降節を生きて御子を私たちにもたらしてくださったマリア様を祝う最もふさわしい月は「待降節」です。



神を求めてこれから待降節を迎

える皆様は、隠れておられる神さまを何処に見出されるのでしょうか？ 待降節を生きて御子を私たちにもたらしてくださったマリア様を祝う最もふさわしい月は「待降節」です。